



格安な大館曲げわっぱが並んだ販売コーナー

ナンやリンゴなどの直売コーナーで盛況する人たち



きょう23日は午前10時〜午後3時。
(田中敏雄)

大館市と能代市で22日、地元企業による展示や出来秋を祝うイベントが開かれ、農産物や特産品の展示販売、体験会などが多彩に繰り広げられた。きょう23日まで。

きょうまで

秋の産業イベント盛況

大館の特産品人気

大館市のニプロハチドローどにぎわった。4で始まった第24回大館園遊会「企業展示」「物販・飲食産業祭」には、約80の企業・団「産業教育展」「農業展」2つ体が出展。4年ぶりの開催で、「リーマーケッツ」のブースを企業の出展、4年ぶりの開催で、設備、27社が出展した企業展人や農産物を買いたい求める人々で、農業用ドローンの展示が目まぐるしく行われた。

物販・飲食では、定価の半額程度という大館曲げわっぱを人気や、鶏めし弁当の販売が売れた。農業展では市内産のリンゴやナシ、ヤマノイモ、ネギ、トルコキキョウなど、さまざまな農産物が並んだ。直売コーナーもあり、試食しながら品定めする人も多かった。

家族4人で訪れた同市の会社員守部裕さん38は「農作業を手伝うこともあり、農産物に触れるのが興味深かった」と話した。

市や大館商工会議所などでつくる実行委員会(委員長・福原厚嗣市長)の主催。2020、21年度は新型コロナウイルス禍のため中止。19年度は同市で異種苗交換会が開かれたため見送った。

能代の魅力ずらり

白神ねぎのPRも



市内企業などがブースを設けた産業フェア

能代市総合体育館では、43 陽高生が考案し菓子店が製造したスイーツと、科技高生が育てた米や野菜などが並び、アと市特産の白神ねぎをPRする「白神ねぎまつり」が開幕。大勢の来場者が詰めかけた。

産業フェアのメインの産業振興展は館内で行われ、木都が象徴する木工品をはじめ、手作り雑貨や靴、衣類などが販売された。能代松陽高校と能代科学技術高が参加した高校産業教育フェアには、松場には屋台が設けられ、鶴形そぼろや豚なんこつなど地元の名物が提供された。

ねぎまつりは屋外の広場で行われ、焼いたネギを無料で食べられる「白神ねぎ千本焼き」や、専用の機械でネギの皮をむく「皮むき体験」が人気を集めた。

皮むきを体験した三種町の佐々木心さん(高小4年)は「すって皮がむけて楽しかった。鍋に入れて食べたい」と話した。

産業フェアは市や能代商工会議所などでつくる実行委員会、ねぎまつりはJAあきた白神ねぎ部会や市ながらがそれぞれ主催。新型コロナウイルス禍で昨年は中止され、今年が2年ぶりの開催となった。

両イベントとも、きょう23日は午前9時半〜午後3時。(斎藤将典)



焼いたネギを無料で提供した「白神ねぎ千本焼き」